

(10) 令和5年度 磐田市立豊田南小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	評価(%)				自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
			子供	保護者	教師	平均			
	自信を育む学校	よいと思ったり考えたりしたことを、自分から行動したり言葉などで表したりすることができたか。(90%)	91	89	100	93	A	<p>○ 昨年度から引き続き「南小の一年」の活用と、教育課程全体がすべて見取れるように一新した「グランドデザイン」の活用により、学校教育目標具現のための手立てを視覚化して、教師が意図的に指導できるようにした。また、本校の子供に付けた資質・能力を「主体性とたくましさ」と押さえ、授業を核とした学校生活全体で、子供が主体になる活動を意図的に設けた。学習面にも生活面にも通ずる「自分から」というキーワードは十分浸透しており、意図的な教育活動の中で、9割の子供が自信をもって行動できたと自覚している。</p> <p>※ R5は、全学級で「目指す授業像」を設定することで、教師も子供も授業を核とした日々の教育活動の中で主体性の育成を意識することができたため、R6もその取組を継続する。R6は、さらに、主体性の育成を校内研修構想と密接に関連付けた。今後も、素直で頑張りやという子供のよさ（強み）を伸ばしつつ、失敗を恐れず、仲間と共にくましく活動できるよう、教育課程のマネジメントと教師の指導力向上に力を入れていく。</p>	<p>・「子供が主体になる活動を意図的に」という先生方の言動、南小の子たちの良さを活かしつつ、失敗を許し認めてもらえる雰囲気があるのだろうなと感じました。</p> <p>・自分の思いを自ら行動に表したり伝えたりできるのは、受け手側が柔軟に対応できる環境にあるからだと思います。互いを認め合える関係が築けているのであれば素晴らしいことだと思います。</p> <p>・学校の目指すべき方向性がグランドデザインにより明確で分かりやすかったです。特に「授業を核とした学校生活」というフレーズは、学校という場所の存在意義や本質が分かりやすくよかったです。「自信」とは「自らを信じる」ことであり、「信」は「人に言う」ことです。子ども達が自身の魅力をいろんな機会でも伝えられる環境や機会を、来年度以降はもっと多く作っていただきたいと思っています。</p> <p>・この項目は以下に続くすべての「目標・取組」の土台となる最も大切な子供たちの姿勢や心の状態を表していると感じています。そのような観点から子供たち、及び保護者の評価点を見ると、学校全体としての取り組みと歩調を合わせ切れていない一部の職員の方の存在を意識せざるを得ないように思います。学校経営において「経営理念」「経営方針」「経営計画」などに該当する項目が存在するならば、それらが本当に現場職員に周知され、徹底して実行されているか客観的で厳正な視点で検証すべきだと感じます。</p>
学び合い(知)	学び合いを通し、学ぶ楽しさを味わえる子の育成	授業で自分の考えをもつことができたか。(88%)	89	-	100	94	A	<p>○ 「学び合いを通し、学ぶ楽しさを味わえる子の育成」をめざし、日々の授業改善に取り組んだ。この知の部の取組は、校内研修の考え方や連動している。授業では、「自分の考えをもつ」「分からないが自分から言える」「どうしてと思いつきながら聞く」「学ぶ楽しさを味わっている」という子供の姿をイメージし、課題や発問を工夫したり、学びの過程を大切に単元を構想したりした。アンケート結果の数値から、多くの学級で、自分の考えを表出し、友達と関わることで、自身の学びを深化させた実感する子供が増えたことが分かる。</p>	<p>・生徒自らが授業を通じて、自分の興味関心を高めていこうになれば、目標である「学び合いを通し、学ぶ楽しさを味わえる子の育成」がより一層有効なものに発展するものと思います。今後とも継続して取り組んでいただきたいと考えます。</p> <p>・学びの中に楽しさがあれば、学力の向上に繋がると思います。友達と意見を出し合ったり、和気あいあいとした環境で学習できることが学校の良いところだと思います。「学ぶことの楽しさ」を見い出すことができるようになってほしいと思います。</p> <p>・自分が知る低学年の子ども達からは「分からないが自分から言える」「どうしてと思いつきながら聞く」の部分はまだ出ていないように感じます。学年が進むことで解消もしくは完成していけばいいと思います。学ぶ楽しさを味わえる授業や活動になっていけば学校がもっともっと楽しくなるでしょう。</p> <p>・一部の生徒による授業妨害の報告と、それが概ね野放しにされている実状を複数の生徒及び保護者から聞いており、私自身も目視で確認をしています。これは無視できる状況ではなく、今年度のPTAのローションである「子供たちの福祉」という観点からも著しくかけ離れた大きな課題です。対象児童の保護者の理解や、補助教員によるサポートなど、あらゆる手段で対処すべき重大案件だと感じます。</p> <p>・学校全体を通して自主性、自発性を大切にしていることを常々実感しています。その点においては教員側からの一方的な学びの押し付けにならないように、各授業で様々な工夫がされ、児童間で個々の考えに耳を傾ける機会が多いように思います。</p>
		自分のクラスは学び合おうとする雰囲気か。(85%)	92	-	100	96	A	<p>※ R6は、知の部の重点目標を「学び合いを通し、自分から学習に向かう子の育成」とより具体的な文言に改める。また、教師と子供の共通の目指す姿である「目指す授業像」の取組に価値があったことから、子供に投げ掛ける目標を、「目指す授業になるように、学び合おう」とし、その活用に力を入れる。さらに、校内研修の主題を「子供が主語になる授業づくりー主体的な学びの追求ー」とし、「国語科」を窓口とした授業改善と学級の風土づくりに注力する。</p>	
		友達の考えから学んでいるか。(88%)	93	-	-	93	A		
		自分の学びに満足しているか。(83%)	86	-	-	86	A		
認め合い(徳)	認め合いを通し、自分から関わる子の育成	学校や地域で挨拶や会釈を進んでいるか。(90%)	92	73	84	83	B	<p>○ 「認め合いを通し、自分から関わる子の育成」をめざし日々の指導に取り組んだ。価値付けとして、挨拶の日のシールの取組と生活委員会や学府の中学生による挨拶運動を行った。子供の意識向上に一定の効果があった。一方、保護者の方の評価は、例年同様、他に比べて低かった。</p> <p>○ 授業の中で子供同士の認め合いをしているが、評価の際、認め合う活動を覚えていなかったり、聞かれていることと経験を結び付けられていなかったりするため、どのようなことが認め合いにあたるのかを教師が伝え、日ごろから取り組んでいることを伝える必要がある。</p>	<p>・地域で南小の子を見かけますが、進んで挨拶している印象がありません。過去PTAで朝の旗振りをした時も疲れていて元気がない印象でしたが、今はどうでしょうか？どちらにしても、大人が挨拶したり声掛けする(愛情を注ぐ)ことが大事だと思います。</p> <p>・挨拶はいくつになっても、コミュニケーションの手段として大切なことだと思います。子どもの頃から、当たり前のごとくして習慣にしてほしいです。また、校内で挨拶をしていない先生を見かけたとき、とても残念な気持ちになりました。子ども達に言う以上、私も含め、周りの大人が手本となって挨拶をしていきたいと思いました。</p> <p>・挨拶・会釈に係る評価がB評価ですが、学校内における挨拶や会釈については問題なく実行されていると思われま。地域において同じように行われているかは、個人差があり評価にも表れているものと感じます。個々の成長に伴い進展することから、心配する程のことではないと思います。</p> <p>・挨拶は、旗振り当番の時でも元気に声が返ってくるのはごく少数であり、南小はややおとなしい児童が多いように感じられます。保護者も、保護者以外の地域の人の見本となっているか疑問が残ります。</p>
		自分の行動を振り返って、自分の良さや成長に気付くことができたか。(85%)	89	89	100	92	A	<p>※ 家庭でも挨拶の効果を感じられるよう、挨拶の日(シールの日)は継続する。PTAIによる挨拶運動の際は、保護者(学級P)にもシールを渡し、参加してもらうことで、保護者へも挨拶の取組の意識を高める。また、引き続き、授業の中でも友達の良さを認め合う場を設ける。認め合うとは、話して伝えるだけではなく、いろいろな伝え方があることを教師が説明していく。また、授業以外の場でも良さを見つけている子を教師が取り上げ、認め合っていることを価値付けしていく。また、全校で良さを認め合うような取組として各委員会で、良さを認め合う「自慢大会」のような企画を行う。</p>	
		友達のよさを見つけ、友達に伝えているか。(90%)	83	-	95	89	B		
鍛え合い(体)	きたえ合いを通し、たくましい子の育成	外に出られる日は、外で元気に体を動かしているか。(90%)	84	80	100	88	B	<p>○ 「きたえ合いを通し、たくましい子の育成」を掲げ、子供たちが「元気に心と体をきたえよう」よう目指した。今年度は、感染症による制約を受けず、体育的行事や学習を行うことができた。特に、子供を主役にした運動会や持久走記録会は、子供たちが自分に合った目標をもって取り組んだ最たるものであった。健康面の取組では、養護教諭による学府統一の活動「心の天気」を継続して行っている。学府スクールカウンセラーによるこの取組は、ありのままの自分を見つめる機会として、子供たちの拠り所となっている。</p>	<p>・「心の天気」含め、自分の心身と向き合うこと、認めることが本当に大事だと思います。</p> <p>・運動会・持久走記録会は、子ども達に選択と目標を考えさせる良い機会であったと思います。たくましさの育みの中で自立の側面が感じられる取組みであったと思う一方、保護者側が変化より回帰を望んでいた節が感じられ、変化に対応していくことの難しさがあったかと思っています。行事としては、何年かぶりに子ども達の応援が響き、子どもにとって良い経験になったのではないかと思います。</p> <p>・外で元気に体を動かしているかの問いがB評価であり、特に子ども自身の評価が低い結果となっているが、他の3項目の評価結果を見る限り、子ども達個々の捉え方の違いによるものと思います。全体を一括評価するならばA評価で問題ないと思われま。</p> <p>・自転車の乗り方が危険な子を見かけました(車道に大きく飛び出していた)。親の指導が大切ですが、学校でも伝えてくださるとありがたいです。</p> <p>・運動会や持久走記録会など、これまでの実施形態や先入観にとらわれることなく、個々の子供たちの必要に答えることを念頭に、その意義や開催方法について非常に工夫を凝らして頂いたことを強く感じました。これは素晴らしい取り組みだったと感じていますし、今後もブラッシュアップを続けて行って頂きたいと強く望みます。一方で、先日のキャッチボール大会などでも、運動にそもそも興味のない生徒や、冷めた姿勢の生徒の存在と、それが野放しの状態で放置されていることにも驚きを感じ、大変残念に思いました。反応を強制する必要はありませんが、私財を投じて運動に親しんでもらおうとした著名人の思いや、足りない資材を補填することを快く了承した納期を急いでくださったPTAの方々の思いを蔑ろにするものだと思います。少なくともその意義について考える時間や姿勢は必要だったのではないのでしょうか。積極的な先生の姿に対し、非常に消極的な先生の姿も目立っており、それが生徒らに伝播しているようにさえ感じました。</p>
		自分に合った目標をもって体育の授業や体育行事に取り組んでいるか。(90%)	92	87	95	91	A	<p>※ R6も、子供を主役にした創意工夫ある体育行事を企画している。避難訓練も、子供が自分で判断できる機会にし、防災意識を高めてく。「主体性とたくましさ」を育むという目的を達成するために、教師自身が行事に対する意識を変えていくことを心掛けていく。</p>	
		健康や安全を意識して生活していますか。(90%)	96	92	100	96	A		
		友達と競い合ったり、励まし合ったりして心と体を強くしているか。(80%)	91	-	95	93	A		

一人一人を大事にする教育	学校に相談できる先生や友達がいるか。(90%)	93	91	100	94.7	A	○ 学校経営目標に「つながりを大事にし、自信を育む学校 <思いや期待に応える>」を掲げ、すべての教育活動を通じて子供や保護者、地域の思いを大切にすることを心掛けてきた。特に、学級・学年経営では、学級に居場所をつくることや子供の良さを価値付けることに努めた。生徒指導課題では、丁寧な初期対応と組織対応を行った。特別支援教育においては、年度初めに子供の特性を全教職員で共通理解し、多様な表れや困り感に寄り添うことを心掛けてきた。これらの教職員の丁寧な取組が、子供・保護者に伝わったと考える。	・学校に相談できる教師や友達がいる、先生は自分のことを充分理解してくれていると感じているという回答は、大変素晴らしいと思います。今後の継続に期待します。 ○学校に相談できる先生や友達がいる ・心配事や困り事、不信感などの点で私のところに相談の連絡をくださるといことが何度かありました。そもそも保護者としては後々の学校生活のことを考慮した時、先生についての疑問や要望を伝えにくい立場にあります。「どんなことでも自分に話してください」という意欲的な姿勢が伝わってくる信頼できる先生が多い一方で、話や言い分を聞いてもらえない、一方的な指導の評判を複数から聞く、授業における態度が相応しくないなどの教員としての資質を問うような存在も確認されています。次項と合わせどのような指導、教育方法がとられているのか、またこの教員の評価点をどのように認識されているのか説明を求めたいと思います。さらに、現状を鑑みこの項目の先生と友達は分けるべきと考えますがいかがでしょうか。 ○先生は自分のことを理解し、大切にしてくれるか ・前項に引き続き、教師枠での自己評価が高過ぎる、もしくは甘すぎると考えます。客観的で冷静な正直な評価である必要、もしくは気づきが無い無意識な状態であるならその改善自体が大きな課題であると思います。
	先生は自分のことを理解し、大切にしてくれるか。(90%)	95	95	95	95	A	※ 今後も子供理解に努めつつ、SCやSSWなどの専門家や子ども若者相談センター等の外部機関と連携して、一人一人を大切にすることを積み上げていく。	
学府共通	目標(めあて)をもち、よりよくなろうと、あきらめずに取り組んだか。(90%)	91	86	100	92	A	○ 井通・青城学府では、今年度も学府の子供たちの課題である「打たれ弱さ」を改善するために、「レジリエンス(しなやかなたくましさ)」の育成を目指してきた。3校の合同研修会では、子供たちをよく知るスクールカウンセラーから講話を聴き、大人(教職員)が「傾聴」することの大切さと「レジリエンスが低くても肯定する」ことの必要性を学んだ。アンケート結果や、研修後の振り返りからは、本研修を日々の指導に生かしていることが分かる。レジリエンスの内容はPTA学府合同保健委員会でも扱い、便りを通じて全保護者に発信した。また、本校における学校保健委員会では、子供が行っている「心の天気」の取組を保護者が参観し、スクールカウンセラーと協議する機会を設けた。これらの継続した活動が、子供を取り巻く大人の意識を変えていると考える。	・学校不適應を防止するためには、臨機応変な対応ができる「しなやかさ」と、自分の言いたいことが言えるような「したたかさ」が必要であると言われます。協議会の実施事業において、中学生ボランティアを募集すると、豊田中学校の応募数に比べ豊田南中学校生徒の応募が格段に少ない現状があります。小学校のうちに自分を前面に出せる「したたかさ」についても身に付けておく必要があると思われます。 ・年代の子供も達が生活する中で、認められることが、一番子どもの自信に繋がると耳にしたことがあります。冬の寒い中、朝7時頃には登校のため家を出る子ども達、そして送り出せるようにしている保護者の方々に頭が下がる思いがしています。地域の子供も達と元気に登校して学校生活が始められることを大切にしていきたいと思ひます。 ・自分を大切にすることは、単純なようでとても難しいことだと思ひます。子供も達それぞれが自分の価値・友達への価値を理解し、大切にすることで大切にされるのが自信に繋がるのではないかと思ひます。 ・自己肯定感を育てることは、家庭でも出来ることはたくさんあり、学校との連携は必須です。より具体的に、どう接していくべきか親として悩ましいところだと思ひます。傾聴と同時に見守ってあげる(すぐに手を出さない)バランスも大事であると思ひます。親では見えない部分があるのは確かだ、学校・近所の方との協力のもと皆で子ども達の成長に手を貸していきたいと思ひます。 ○周りの人や出来事をしなやかに受け止めることができたか ・自らの身体と心の変化に順応していくことさえ困難なこの時期に、非常に理想の高い項目だと感じます。クラス毎の個性があるため、人や出来事の幅や衝撃の違いの差も大きく、それゆえに見守っていただく担任の先生には負担の多い生活だったことと思ひます。記載されていた「傾聴」姿勢はすべての学校関係者の方々に大切にしていきたいと感じました。
	周りの人や出来事をしなやかに受け止めることができたか。(90%)	91	88	95	91	A	※ 「レジリエンス」の育成は、校内の取組だけでは十分でない。今後も、家庭と連携の上、学府3校で同一歩調を進めていく。	
	自分のことを大切にしていたか。(90%)	92	97	100	96	A		
地域とともにある学校	地域と一体になって子供を育む	—	94	—	94	A	○ 参観会での授業公開や学年・学校便りや本読みカード、ホームページ等の手段により、子供の成長や学校での取組を学校教育目標に関連付けて発信した。また、「開かれた教育課程」の考えのもと、学校が行っていることを分かっていただけのように、授業や行事の際は積極的にポプラっこサポーター(保護者ボランティア)に協力を呼び掛けた。学校への理解と協力性の高い地域であり、登下校時には多くの見守りボランティアが子供の安全を見守ってくれている。このような取組により、本校の様子が保護者・地域に伝わったと考える。	・保護者との意思疎通ができていて、支持が高い証拠だと思ひます。ボランティアで関わっている保護者が多いのも理由でしょう。それは、この学校の特長でもあるが、地域の文化なのか?意識が高いと思ひます。 ・学校と家庭および地域が良好な関係を築くため、地域としても周囲との連携や情報提供等に努めることで、より一層の安心安全な地域環境づくりを目指してまいります。 ・この3年間でポプラっこサポーターの数が増加してきているのは、児童数の減少がある中、大変有り難いことです。今後も保護者、地域ボランティアとの協力を一層高めて活気ある学校運営をお願いするとともに、保護者として感謝と一層の協力を呼び掛けていきたいと思ひます。地域回覧板への対応もありとうございます。 ・学校だより等で目指す子どもの姿などを発信してくださっていることで、9割以上に周知されていると思ひます。またホームページで、子ども達が真剣に取り組む姿や楽しく過ごす様子を見ることができ、親としてとても安心します。 ・子供たち、及び保護者の理解や認識は不十分だったとしても、年間を通しての取り組みが、記載されている様々な仕掛けや紐付けのおかげで実践できていたとすれば、結果的に目指すものに近付けたのではないかと思ひます。教師の方々におかれては、その認識を日頃の会話の中で強く感じられる方と、残念ながら旧体制的な固定概念から脱却できていない、あるいは個人的な正義や信念に重きをおかれているように思えてならない方に大別できてしまったように感じます。これは本校経営上の改善すべき大きな課題であり、世の中の変化やニーズに対して対応しきれないことの現れであると認識する必要を強く感じます。

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校運営協議会に参加した学校関係者からは、本校の教育活動を、「これまでの行事を見直したり子供の思いを前面に出す取組を試みたりすることで、子供の主体性とたくましさや育むための教育を推進している」と受けとめていただいた。一方、子供・保護者と教職員の評価結果(値)の違いを教職員の意識の差と受け止め、問題視する意見もいただいた。

私たちは、学校評価結果や様々な教育活動の振り返りをもとに教育課程編成会議で課題を協議し、よりよく改善するべく次年度の教育課程を編成している。そこには、児童の特性や実態、保護者や地域の思いや願いも反映される。来年度は、令和6年度の学校経営目標「つながりを大事にし、自信を育む学校【思いや期待に応える】」を全教職員がしっかりと共有し、どの学級においても本校のめざす教育が行われるよう、教育課程推進に努めたい。

※A4で1~2枚